



各 位

平成 28 年 2 月 10 日

会 社 名 株式会社 SOL Holdings
代表者名 代表取締役社長 赤尾 伸悟
(JASDAQコード・6636)
問合せ先 取締役管理部長 中原 麗
電 話 03 - 3449 - 3939

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 3 月期の通期累計期間の連結業績予想を下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期通期の連結業績予想数値の修正（平成 27 年月 4 日 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-----------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------|
| 前回発表予想 (A) (平成 27 年 6 月 26 日) | 百万円 2,300 ～ 4,268 | 百万円 △1,055 ～ △398 | 百万円 △1,057 ～ △400 | 百万円 △1,060 ～ △400 | 円 銭 △59.66 ～ △22.51 |
| 今回修正予想 (B) | 2,800 | △1,700 | △1,700 | △2,500 | △137.20 |
| 増減額 (B - A) | △1,468 ～ 500 | △1,302 ～ △645 | △1,300 ～ △643 | △2,100 ～ △1,440 | — |
| 増減率 (%) | △34.3 ～ 21.7 | — | — | — | — |
| [ご参考]前期実績 (平成 27 年 3 月期通期連結業績) | 1,298 | △1,121 | △1,129 | △1,275 | △102.81 |

2. 修正の理由

平成 28 年 3 月期通期の連結業績予想につきまして、売上高はテストソリューション事業の受注が堅調に推移しており、当初第 3 四半期までの予想値である 10 億 32 百万円を既に

達成し、当第3四半期連結累計期間で11億15百万円の計上となりました。また、レストラン・ウェディング事業の売上につきましても当初年間予想値である9億円を既に達成しており、当第3四半期連結累計期間で9億62百万円を計上しております。しかしながら、バイオ燃料事業の年間の売上予想値につきましては、メキシコにおいて80百万円の予想値に対し17百万円、ベトナムにおいて56百万円の予想値に対し15百万円のみと当第3四半期連結累計期間においてバイオ燃料事業に関する売上は32百万円となっております。このような中、メキシコにつきましては現在購入申込みを受けております110tの一部につきまして今期販売を行うことで通期50百万円の売上確保を見込み、ベトナムにつきましては現在販売予定先と交渉を行っておりますが、納品が来期になることが予想されるため今期の売上につきましては15百万円の着地予想となります。また、タイにつきましては昨年2月に現地企業であるSORG.JTとの間で締結した独占販売契約に基づき、種子購入を前提とした試験栽培を実施しSORG.JTより提示された条件である初回100t/haは既に達成しており、種子販売に関する売買契約締結に向け協議を行っていましたが、平成28年2月上旬にSORG.JT側より3番草までの収穫を確認したい旨の要請を受け、現在現地法人において3番草収穫に向けた栽培管理を実施しております。これにより、タイSORG.JTに対する独占販売契約記載の150tの種子販売につきましては今期内に納品が間に合わないことが予想され、当初予想値であるタイに関する売上18億円を見直し、今期の売上は見込んでおりません。インドネシアにつきましては、第2四半期決算短信にてご報告のとおり、インドネシアにおいて確保していた圃場が栽培には適しているものの、収穫不適地（農道が極端に狭いため農耕機械搬入不可能）であることに加え新たな圃場につきましても選定確保できていないことにより、インドネシアにて実施予定でしたペレット製造事業は現時点におきまして実現していない状況です。これらの要因によりインドネシアで見込んでおりましたペレット製造事業からの売上確保は難しく当初予想していました30百万円につきまして今期は売上計上の見込みはございません。このような状況に鑑み第4四半期連結会計期間の売上予想値につきましては、テストソリューション事業4億7百万円、レストラン・ウェディング事業2億10百万円、バイオ燃料事業33百万円、第4四半期において合計6億50百万円の売上計上を見込んでいるため、最終着地予想を28億円と修正いたします。

なお、インドネシアにおけるペレット事業の現状を鑑み、ペレット製造用として購入したペレタイザー及び現地工場内機械設備等につきまして、当第3四半期連結会計期間におきまして固定資産の減損損失として30百万円を計上させていただきました。

また、レストラン・ウェディング事業につきましては、当社が子会社化を行う時点で試算した収支計画に対し、レストランにつきましては店舗老朽化による修繕費の増加、結婚披露宴の提供につきましては当初80件の成約を目指していましたが、平成27年12月末時点で成約件数57件と大幅に遅れが生じており披露宴1件当たりの単価も前年比で約0.8百万円低下している状況です。

このような状況下、外部飲食コンサルタント会社によるメニュー、コンセプト及び仕入

食材の見直しを実施しコスト削減を図るべく不採算店舗につきましては、定期借家契約終了とともに閉店しておりますが、平成28年3月期通期におきまして、レストラン・ウェディング事業から当社が試算した収益確保は困難なことが予想されるため、当第3四半期連結会計期間において、レストラン・ウェディング事業に係るのれん5億52百万円を(注1)、さらに、平成28年5月末閉店予定の店舗につきまして原状回復に係る費用が当初見積もりと実際に発生する費用に乖離が生じたため、差額である18百万円、合計5億71百万円を減損損失として計上したこと、さらに当社が平成27年11月12日に公表しました「営業外損失及び特別損失のお知らせ」(注2)にてお知らせのとおり、関係会社への貸付金に対する為替差損18百万円、レストラン・ウェディング事業の固定資産の減損損失52百万円も計上しております。

こうした中、当期純損失につきましては、当第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年12月31日)において純損失として19億63百万円を計上しております。さらに、現在当社が在庫として保有していますスーパーソルガム種子がプロトタイプ(注4)であり、現在メキシコにおいて種子購入申込みを受けている先へ申込品種ではなく、現在庫種子を販売しますと仕入価額と販売における価額に差額が発生し会計上販売価額が仕入価額を下回る可能性があります。これにより、第4四半期連結会計期間において種子の販売損としまして約3億円～4億円(注5)の計上が予想されるため、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては当初予想値から損失が14億40百万円拡大し、△25億円の純損失の見込みへと変更させていただくものです。

(注1) 第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年12月31日)における営業外損失及び第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日～平成27年12月31日)における特別損失の詳細につきましては、当社が平成28年2月10日に公表しました「営業外損失及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照願います。

(注2) 第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年9月30日)における営業外損失及び第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日～平成27年9月30日)における特別損失の詳細につきましては、当社が平成27年11月12日に公表しました「営業外損失及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照願います。

(注3) 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

(注4) プロトタイプとは、研究開発費、圃場確保、圃場管理費、製造コスト等の費用が含まれている種子になります。

(注5) 種子の評価損に関しましては、現時点における在庫の一部を販売することを前提として算出しているため、今後の販売数量等により評価損は変動いたします。

以 上